鴻島 NEWS

第28号
―2019―
中央地区
自治会
広報委員会

ごあいさつ

鴻島中央地区別荘自治会
会長　長瀬 直

若葉薫る季節となりました。会員の皆様もご健勝にお過ごしの事とお喜び申し上げます。

第28回鴻島中央地区自治会総会が、元日生小学校鴻島分校講堂において無事開催されました。又役員全員の再任となり、会長の任も引き続きお受けさせて頂く事となりました。

昨年は、7月に台風と梅雨前線による集中豪雨により、島内でも道路に被害が多く出ました。別荘地も30年以上経過していますので建物、道路等に災害リスクが増す事が懸念されます。

本年も役員一同力を合わせて参ります。

会員の皆様のご支援、協力をよろしくお願い致します。

総会報告

第28回定時会員総会が、元日生小分校講堂において開催されました。

出席者、委任状合わせて98人(79%)となり、総会は成立致しました。

事務局の大里さんより30年度の会計報告と補足説明、会計監査の樽家さんからの監査報告の承認があり、その後、出席者に役員立候補を受付けましたが立候補者は無く、全員の再任となりました。続きまして、令和元年度の予算案と事業計画が出席者多数により承認されました。その後、新しい会員2名の自己紹介と出席者全員の懇親会が催されました。又、会員の皆様の中で自治会の継続の為にもぜひ役員になってご協力頂ける方を受付けていますので、何卒ご参加下さいます様にお願い申し上げます。ご連絡は事務局・大里までご報下さい。

又、今年も5月3日9時より鴻島ヨットクラブ有志によるヨットクルーズ体験が催されました。参加された方には好評を頂きました事をご報告致します

会計報告　削除

東地区の土砂くずれ現場

事務局よりお知らせ

1、放置自動車について

本村(定期船発着港)の港近辺には長期で車を放置しないでください。緊急自動車等が通れなくて困ってます。又、部品の盗難、いたずら、海への投棄等の被害が頻発しています。どうしても長期で港の近くに駐車される場合は適当な場所を案内しますので事務局大里まで連絡下さい。

TEL 090－4903－6281

2、樹木の伐採について

本年も引続き予算(年間36万円)を計上して高所作業車等により私道幹線上の見通し不良、通行の妨げになる樹木の伐採を行ってゆきます(従来は役員有志によるボランティアで実施)邸宅内から道路にはみ出している樹木も伐採しますのでご了承下さい。どうしても残したい樹木については、木札等で分かるように「切るな」と表示して下さい。又、邸宅内の樹木の伐採につきましては有料(格安)で実施しますので事務局までお問い合わせ下さい。

3、溝の清掃について

本年度も2回の予算計上にして強化します(実際は4～5回実施)が、イノシシが石を溝に蹴落とし詰まることがあり、掃除が追っつかないで溝が詰まる場合が多々あります、お気付きの時は流れの妨げに成っている石を谷に捨てていただければ幸いです。

4、ゴミの捨て方について

必ず備前市指定のゴミ袋(日生のスーパーで販売)に入れて廃棄するよう、又大型ゴミ等分からない時はログあした

TEL 0869－72－1731

に問い合わせて下さい。又、ごみ箱のカギを紛失された方はあしたに預けていますので(実費500円)取りに行って下さい。

ゴミの捨て方の詳細は直接には備前市役所環境課衛生係

TEL 0869－64－1821

までお問い合わせ下さい。

5、ゴミ袋の販売について

会員の方々より備前市指定ゴミ袋の販売先が分からないとの意見がありましたので、今後、ログあしたさんの協力を得て自治会委託により、備前市指定ゴミ袋をあしたさんにて販売して頂く事となりました。ぜひご利用下さい。

不燃物等は燃えないゴミ袋も使用する事になりましたので2種類の販売となります。

6、ゴミの収集日について

生ゴミ等燃えるものについては毎週火曜日です。(これは必ず町販売の燃えるもの指定袋に入れて下さい。)

燃えないもの、資源回収ゴミ、等は月一回です。リサイクル家電は絶対に持ち帰りませんので出さないで下さい。

燃えないゴミ袋に入らない大きさの物は全て大型ゴミとなり町よりのシールを買って貼り、町に引取日を聞いて出して下さい。

又、資源回収ゴミ(ペットボトルダンボール、アルミ缶)はキレイに洗いラベル、フタを取り透明の袋に入れる。ダンボールの汚れたものは燃えるゴミとなります。キレイなものはひもでくくり資源回収ゴミとなります。燃えないゴミ袋は町販売の指定袋を必ず使用する事。

★会員でない人に申し上げます。

自治会活動は会員の負担で行われています。別荘地も32年たち道路の補修や溝掃除も会費でまかなっています。持主が売買によって替わった場合や知らない会員外の人たちは何も負担していません。道路や溝や車の撤去や水道の破損も全て会員たちの負担なのです。折角手に入れた別荘も公共性は高いのです。皆様相応の負担をするのが社会のルールだと思います。島を利用するにはぜひ、会員になって頂きたいと思います。ご近所で持主が替わった方にはぜひ説明して下さい。

★火事の予防のお願い

鴻島では過去32年間に9回の火事が起こっています。特に強風が急に吹く事もあり、ゴミや落葉等のたき火は絶対しない様に気を付けて下さい。お互いに注意しましょう。

役員名簿〈令和1年度〉

(会　長)長瀬 直
(副会長)樽家紀之・森田 考
(会　計)兵頭信一
(監　査)寺浦 格・樽家紀之
　　森 啓充
(事務局)〇七九八(五三)二四五四
　　大里二郎
(役　員)
〔再　任〕米田 稔・西野健一
　　黒岩 功・高橋健造
　　(順不同)

おねがい

別荘を売却された方は次の購入者の氏名、住所を事務局大里までご連絡ください。

市に問い合わせても個人情報守秘義務等の理由により、情報を得ることができません。
ご協力の程、宜しくお願いします。

連絡先 ： 〒662-0828 西宮市門戸西町9-38　TEL ： 0798-53-2454　大里二郎（事務局）

令和1年度 総会・役員・懇親会

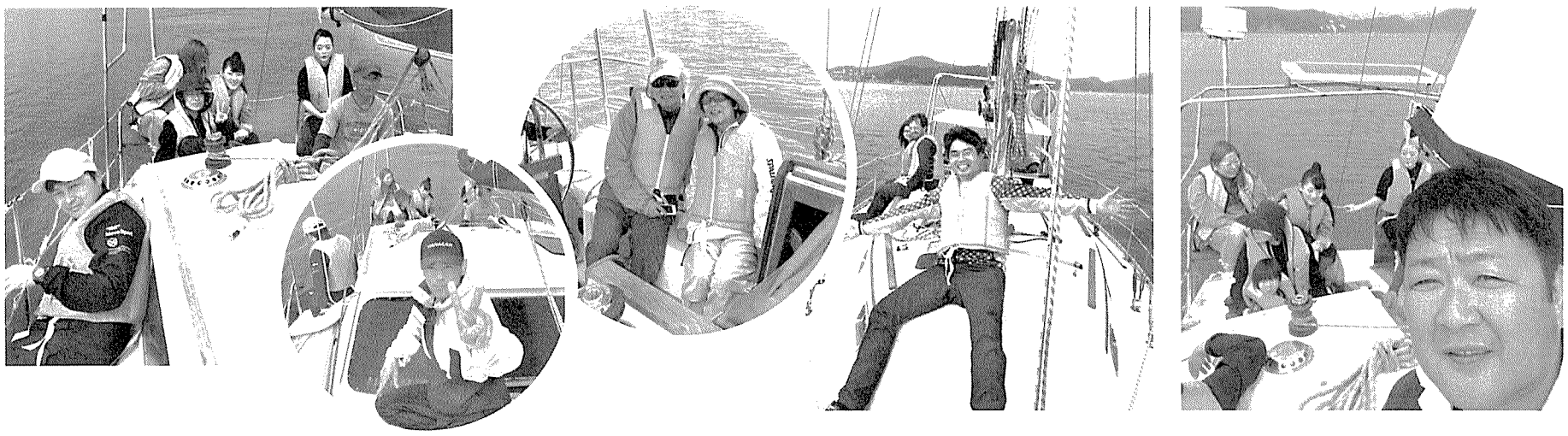
総会風景

懇親会風景

役員会風景

31年度 3月

ヨット体験クルージング



古き、よき伝統美

備前は、わが国の六古窯といわれている瀬戸・常滑・丹波・越前・信楽・備前のなかでも、もっとも古い窯です。須恵器から備前焼になり、無釉焼き締めの伝統を守りつづけ、一千年の間、窯の煙は絶えたことはありません。

備前では〝古きよき伝統〟を守り、昔ながらの登り窯、松割木の燃料を用いて、雅味深い備前焼を作っております。

うわぐすりをかけないで、良質の陶土をじっくり焼き締める、このごく自然な、土と炎の出会い、その融合によって生み出される素朴な、そして、手づくりのぬくもりの感じられる焼き物が備前焼なのです。その土味を生かした焼成、姿の美しさ、巧まない作行きによって生み出された枯淡で素朴な味は、日本美の原点であり、時代の風潮とか流行を超越して、多くの人々に愛されて来ました。

備前焼は、平安末期―鎌倉初期にかけて、その特徴を備え、室町時代の茶道の流行で信楽、南蛮などの焼き物とともに、一躍世に出ました。それは、茶禅一味の草庵茶の理想と無釉焼き締めの、健康な素肌の美、なんの飾り気もない渋い素朴な味が、侘（わび）寂（さび）の境地に相通ずるものがあったからでしょう。

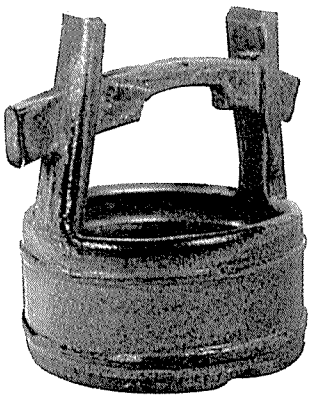
江戸時代、備前藩主池田光政公は、備前焼を保護、奨励し、窯元から名工を選び、御細工人として扶持を与えました。細工物といわれる布袋、獅子などの置物や香炉などもこのころから作られるようになり、朝廷、将軍などへの献上品が多くなりました。また、酒徳利、水がめ、すりばち、種つぼなどの実用品も多量に生産され、広く売り出されたのもこのころです。

実用品として、また、雅趣に富む愛蔵品として、昔から多くの人々に愛されてきた備前焼の人気は、現代においてますます高まっています。

素朴、土の味、手づくりのぬくもりなど、現代に欠けているものを備前焼に求め、生活のうるおい、心のよりどころとして愛用される方々がふえたからでありましょう。

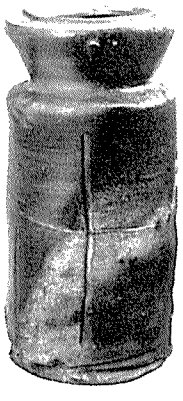
胡麻（ゴマ）

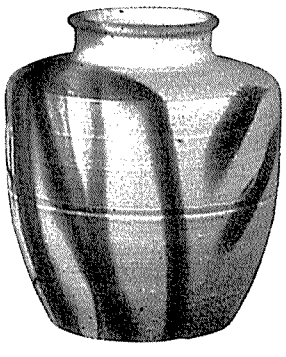
松割木の灰が熱でとけて灰釉になり、胡麻をふりかけたようなものをいう。この胡麻の作品の多くは、火の近くの棚の上に置かれているため灰も多く、とけて流れた状態のものを〝玉だれ〟という。



桟切り（サンギリ）

窯床においてある作品が灰に埋もれ、火が直接あたらないものと、空気の流れが悪いのが相まっていぶし焼（還元焼成）になったために生じる窯変で、ネズミ色・暗灰色・青色等がある。



緋襷（ヒダスキ）

素地が白色あるいは薄茶色のものに赤い線があるものをいう。本来は作品がくっつくのを防ぐため、ワラを間にはさんだり巻いたりして、大きな作品やサヤの中に入れ、直接火が当たらないようにして焼いたものである。